

現地調査の概要

高千穂町における放牧の概要

高千穂町 農林振興課



本地域に於ける放牧の取組について

- 昭和40年代に各地区で林間放牧に取り組んだ実績もあったが、脱柵や過放牧、ダニの害が出るなどの影響もあり、いつの間にか途絶えてしまった
- これまでの放牧に関する畜産農家のイメージ
 - 脱柵して近所の農作物を荒らすのではないか？
 - 常に目の行き届く牛舎内でなければ不安
 - 柵を作ったり水を引くのが大変
 などマイナス要因が大きかった
- 電気柵を活用した水田放牧、林間放牧等の成功事例を知り、「大規模な放牧地が無い西臼杵でもやれる！」という自信を持った

今狩牧野営農組合の概要

	氏名	母牛頭数	放牧実施頭数及び今後の計画等
代表	伊東和美	25頭	72aに7頭放牧 今後170aまで拡大予定
構成員	松野富夫	52頭	放牧予定 150aの牧野改良を計画
構成員	都豊国	2頭	クヌギ山など、放牧林地の提供を計画

取組のきっかけ

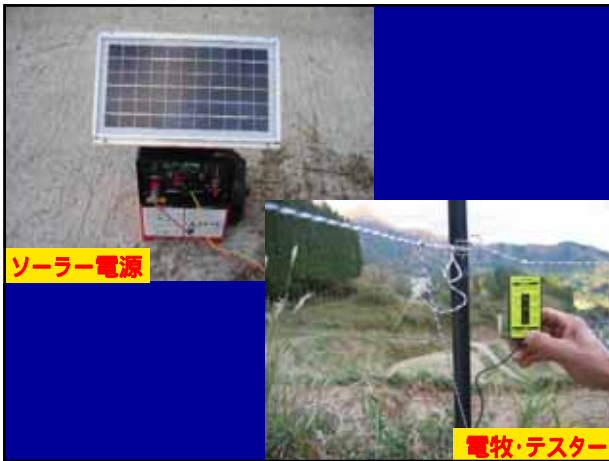
- 農家の高齢化や後継者不足、兼業化等の影響もあり、遊休農地が目立ち始めイノシシや猿の被害も拡大
- ↓
- 耕作放棄地や荒れつつある草地・林地が増えていくことを懸念
- ↓
- 「耕作放棄地が拡大するのは放置しておけない、何とか有効活用が出来ないものか」
- ↓
- 畜産での草地利用という点に着目

耕作放棄により荒廃しつつあった草地



具体的取組の方向性について

- 普及センターからの提案
- ↓
- 昨年山口県で開催された「放牧サミット」で視察した内容を参考に、草地造成と併せて電気牧柵を活用した放牧に挑戦してみては！？
- 宮崎県単独事業「遊休農地復元条件整備事業」を活用



取組結果とその効果

- 試験放牧の取組について
 - 牛舎横の水田で馴致を実施
 - 平成17年11月に、放牧地に電気牧柵を設置し、4頭を試験放牧
 - 水田での馴致期間を設けたことでスムーズに放牧へ移行
 - 電気牧柵があれば水田であっても、傾斜のきつい場所でも簡単に放牧が可能であるという自信

水田での馴致風景



昨年秋、試験放牧の様子



草地造成の方法及び具体的な放牧準備

- 掃除刈りと、苦土石灰による土壌改良
- ダニ等の害虫を減らす対策として火入れを実施
- オーチャードグラス、イタリアンライグラスの播種
- 移動式飲水施設の制作
(軽トラ、ウォーターカップ、500ℓタンク)
- 駆虫薬投与と防ダニ剤の塗布



飲水施設設置状況



放牧して良かった点(生産者の声)

- 粗飼料確保、飼養管理の手間が省けた。
- 飼料代が大幅に軽減出来た。
- 牛舎内の糞尿が大幅に減った。
- 一頭当たりの面積が広くなり牛舎内衛生状態が良くなった。
- 放牧牛に活力が出てきた。
- 農村としての景観が確保され、農地の保全が出来た。
- 荒地だった土地の提供者が放牧風景を見て喜んでる姿を見ることが出来た。

放牧して気付いた点(生産者の声)

- 牛は人間が思うよりずっと急傾斜でも対応し移動することが出来る。
- 放牧してみるとリーダー牛がはっきりし、集団で移動している。
- 牛は多い方が安心してゆったりしている様に見える。
- ほぼ同じ時間帯に活動しており1日での活動周期が分かってきた。
- 放牧前にツメを切ったら痛がっていたので、切るにしても切りすぎない様に注意が必要。
- 電気牧柵は牛の放牧では頼りないと感じたが、かなり確実にコントロールすることが出来る。

今後の方針

- この取り組みが本地域に於ける先進優良事例となることを期待
- 山間地の飼料資源を活用した放牧技術の確立と、その普及
- 中山間地域等直接支払制度交付金事業や集落営農など、集落単位での自主的な取組への誘導
- 国、県の放牧推進事業等の活用と、関係機関一体となったサポート

入牧1ヶ月後の風景



放牧の風景



斜面で草食する放牧牛



日陰で休憩する様子



リーダーを中心に移動の様子